

序章 基本計画策定にあたって

1 第3期基本計画の策定趣旨

みやぎ食と農の県民条例（H12制定）に基づき、本県の食と農に関する総合的な計画として、食と農を取り巻く情勢の変化や、SDGs（持続可能な開発目標）の観点も踏まえ、令和3年度を初年度とする第3期計画を策定します。

2 基本計画の位置づけ

みやぎ食と農の県民条例で掲げる4つの目標を実現するために定める宮城県の食と農業・農村の振興に関する概ね10年を期間（R3～R12）とする基本的な計画です。

条例に掲げる4つの目標

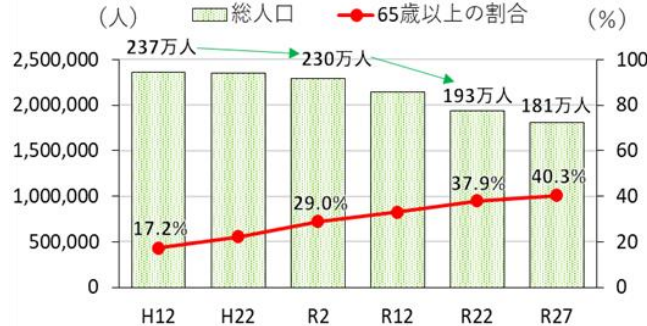
- 安全で安心な食料の安定供給
- 農業の持続的発展
- 多面的機能の発揮
- 農村の総合的な振興

3 基本計画の進行管理

第1章 宮城県の食と農を取り巻く情勢とこれまでの取組

人口減少が今後さらに加速し、高齢化率も増加。

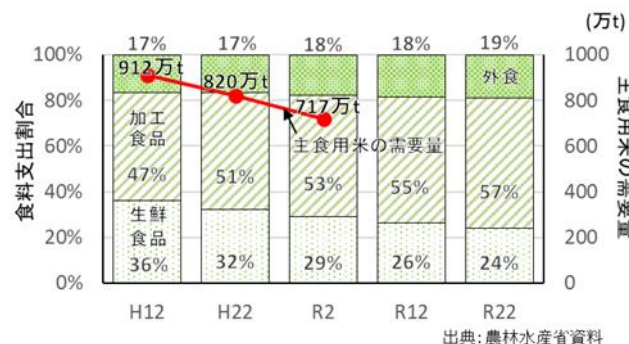
[宮城県の人口及び高齢化率の推移と見通し]



出典：国立社会保障・人口問題研究所平成30年推計値

主食用米の需要量は年10万tペースで減少する一方、食の外部化が進行。

[食料消費の動向と主食用米の需要量（全国）]



出典：農林水産省資料

第2章 基本計画で目指す将来の姿

【キャッチフレーズ】 共創力強化 ～多様な人材が豊かな未来をつくる みやぎの食と農～

人口減少や高齢化が進む中で、食と農業・農村への消費者の理解と協働のもとに、農業者だけではなく、次世代の若者も含め、食と農に関わる全ての人材が結びつき、活躍することにより、豊かなみやぎの食と農の未来を共に創っていくことを目指します。

I 食の将来像

海・山・大地の豊かな恵みと東北の大消費地仙台を抱える強みを活かし、消費者と生産者の相互理解を深めながら、食品産業等との連携を強化し、食のバリューチェーンをつなぎます。これにより、「食材王国みやぎ」を全国に浸透し、時代のニーズに対応した豊かなみやぎの食をつくり出します。

II 農業の将来像

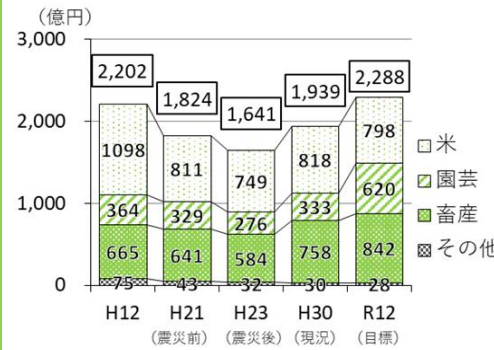
全国トップクラスの大区画水田整備率や園芸栽培に適した気候や立地条件を活かし、アグリテックによる労働生産性の高い水田農業や畜産経営を展開するとともに、食品産業と連携しながら園芸の生産を拡大します。これにより、みやぎの農業を地域経済を支える産業として発展させます。

III 農村の将来像

都市と農村の距離が近く、美しい風土や地域資源が豊富にある強みを生かし、郷土愛のある地域人材が外部人材との協働により、多彩な“なりわい”を創出します。また、農村におけるデジタルトランスフォーメーションの推進や防災機能を強化します。これにより、関係人口や移住者に選ばれる持続可能な農村を実現します。

主要目標

1 農業産出額の目標



● 農業産出額

1,939億円(H30)⇒**2,288億円**(R12)

園芸産出額倍増を目指します！
333億円(H30)⇒670億円(R12)
園芸産出額620億円
+1次加工による付加価値50億円

⇒マーケットインによる生産拡大と食品産業との戦略的な連携によるバリューチェーンの構築を進めます。

2 農業の担い手・農地の目標

● 認定農業者数の目標

6,279経営体(R1)⇒**6,300経営体**(R12)
〔販売農家数〕
37,522戸(H27)⇒20,500戸(R12)

⇒販売農家数が減少する中で、食と農業・農村の持続的発展のため、意欲ある家族経営体を含め多様な人材の確保・育成を推進します。

● 農地面積の目標

126,300ha(R1)⇒**119,500ha**(R12)

⇒条件不利地における耕作条件の改善や、アグリテックの導入、地域資源を活用した多様ななりわい創出等により、優良農地の確保と効果的な活用を推進します。

第3章 将来像の実現に向けた施策の推進方向

各種施策の推進にあたっては、平坦地域と中山間地域のそれぞれの強みや課題を意識した取組を展開します。

I 時代のニーズに対応した県産食品の安定供給（豊かな食）

施策1 県民による豊かなみやぎの食と農への理解と地産地消の促進

施策2 生活様式の変化に対応する県産食品の販売力強化

施策3 県民への安全・安心な食料の安定供給

II 次代の人材育成と革新技術の活用による戦略的な農業の展開（儲かる農業）

施策4 みやぎの農業を支える多様な人材の確保・育成

施策5 先端技術等を活用した農業生産の効率化と高度化

施策6 基盤整備と集積・集約化による農地利用の高度化

施策7 先進的大規模拠点を中心とした園芸産地の確立

施策8 水田フル活用による需要に応じた作物生産の振興

施策9 生産基盤の拡大による畜産の競争力強化

III ひと・もの・ちえを総動員した持続可能な農村の構築（活力ある農村）

施策10 関係人口と共に創る活力ある農村

施策11 地域資源を活用した多様ななりわいの創出

施策12 環境と調和した持続可能な農業・農村づくり

施策13 農業・農村の強靱化による地域防災力の強化

第4章 将来像の実現に向けた推進体制

「各主体の役割」、 「関連計画との連携」

参考資料

農業経営モデル、産業振興審議会名簿、みやぎ食と農の県民条例

I 時代のニーズに対応した県産食品の安定供給（豊かな食）

施策1 県民による豊かなみやぎの食と農への理解と地産地消の促進

- ①消費者による体験を通じたみやぎの食に対する理解促進
- ②消費者によるみやぎの食材の利用促進

施策2 生活様式の変化に対応する県産食品の販売力強化

- ①消費者視点によるバリューチェーンの構築
- ②みやぎの食材・食品のブランド化推進による国内外への販路開拓

施策3 県民への安全・安心な食料の安定供給

- ①生産から製造の各段階における適正管理による食品トレーサビリティの取組推進
- ②科学的知見に基づく県産農林水産物の安全性評価
- ③様々なリスクを見据えた食料供給体制の構築



II 次代の人材育成と革新技术の活用による戦略的な農業の展開（儲かる農業）

施策4 みやぎの農業を支える多様な人材の確保・育成

- ①意欲ある農業経営者の確保・育成と円滑な経営継承
- ②企業等の農業参入推進
- ③多様な働き手が活躍する農業生産支援体制の構築

施策5 先端技術等を活用した農業生産の効率化と高度化

- ①生産性向上のためのアグリテックの推進
- ②時代のニーズに対応した農業技術の開発と現地普及

施策6 基盤整備と集積・集約化による農地利用の高度化

- ①農業の成長産業化に向けた農業基盤整備
- ②中山間地域等における農業生産の効率化と優良農地の確保
- ③担い手への農地集積・集約化の推進

施策7 先進的大規模拠点为核心とした園芸産地の確立

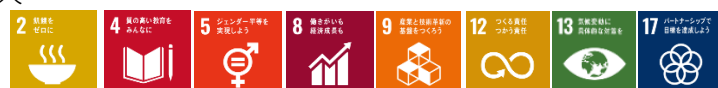
- ①先進的施設園芸の拡大
- ②大規模露地園芸の振興
- ③安定供給体制強化のための産地拡充と地域戦略品目の振興
- ④食品関連企業との連携強化

施策8 水田フル活用による需要に応じた作物生産の振興

- ①需要に応じた米生産
- ②実需に対応した大豆・麦類づくりの推進
- ③収益性の高い園芸作物への転換

施策9 生産基盤の拡大による畜産物の競争力強化

- ①地域の中心となる先進的畜産経営の拡大
- ②自給飼料生産基盤の強化
- ③優良種畜の確保と生産基盤の拡大



III ひと・もの・ちえを総動員した持続可能な農村の構築（活力ある農村）

施策10 関係人口と共に創る活力ある農村

- ①農村を支える人材育成と体制整備
- ②交流拡大による関係人口の創出
- ③農村におけるデジタルトランスフォーメーションの推進

施策11 地域資源を活用した多様ななりわいの創出

- ①地域資源の掘り起こしと磨き上げによる高付加価値化
- ②地域運営組織による地域資源を活用したなりわいの創出
- ③「地消地産」による地域経済循環の構築

施策12 環境と調和した持続可能な農業・農村づくり

- ①環境に配慮した生産の取組支援と理解促進
- ②農村の地域資源保全活動の推進による多面的機能の維持・発揮
- ③野生鳥獣による農作物被害対策の強化とジビエ利活用の拡大

施策13 農業・農村の強靱化による地域防災力の強化

- ①農村の防災機能の充実
- ②水田の有する貯留機能の効率的な発揮（田んぼダム）
- ③農業水利施設等のストックマネジメントの推進
- ④農村地域の生活環境の維持

